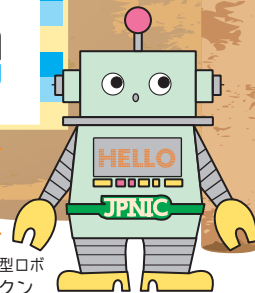


インターネット ことはじめ

第6回 音楽配信への道～CDからストリーミングへ～



インターネット研究所
ネットソン博士



JP-29型ロボ
ニッケン

💡 音楽再生への道



2019年3月現在、音楽を楽しむには定額制の音楽配信サービスを利用するのがお手軽です。月額1,000円程度で、インターネットを通じたストリーミング再生がほぼ無制限に利用できます。こうした状況に落ち着くまでには紆余曲折がありましたし、また未来永劫このスタイルが続くことも無いでしょう。未来を予測するのは難しいですが、ここに至るまでの過去を振り返ってみます。

単純に音を出すだけなら、1980年代のパソコンでも可能でした。ゲームなど、ソフトウェアだけで短い単語を喋らせた例もあります。しかしデジタルでの録音再生となると

当時のパソコンには荷が重く、1990年代前半ようやく一般化します。とはいえ、1990年代前半はまだハードウェアも乱立し、アプリケーションが自前でハードウェアごとに対応するという状況でした。

広く普及するOSが標準で録音再生をサポートするのは、奇しくも同じ1990年代前半のMacintoshやWindowsからです。もっともこの頃は両者ともにマイナーな存在でした。また標準化されたとはいえ、当時PCで音楽を再生する場合には、音楽用CDを直接再生することが一般的でした。この時代、パソコンで扱える音楽データは1分あたり10MBほどのデータ容量があり、当時のPC用記憶デバイスに収めるには大きすぎたからです。

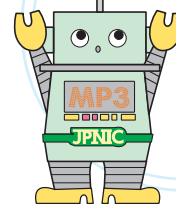
💡 圧縮フォーマットとブロードバンド

こうした状況が変化したのは、2000年前後です。まずMP3に代表される音楽用の圧縮フォーマットが普及し始めたこと。これらのフォーマットは許容可能な音質の劣化と引き替えに、データ容量をほぼ1/10のサイズにできました。それ以前にもデータを圧縮する方法はあったのですが、音質とデータ容量のバランスの点で音楽向きとは言いがたいものでした。

2000年代には記憶デバイス容量も大きくなり続け、1分あたり1MB程度で十分音楽再生を楽しめるなら、数百分相当のデータを保存することも現実的になりました。音楽用CDではなく、PCに保存したデータを聞くというスタイルが普及し始めたのです。こうしたデータに対応したポータブルプレーヤーも登場し、2001年10月には代名詞的存在とも言えるiPodが発売されています。とはいえ、この頃はまだ音楽流通の主役はCDです。

購入した、もしくはレンタルしたCDからデータを作成する、という方法が一般的でした。

次に音楽用圧縮フォーマットの普及とほぼ時を同じくして、常時接続で高速なインターネット接続サービスも始まります。当初は1.5Mbps程度のADSL※でしたが、よほど長くない限り1曲のデータが数分でダウンロードできます。こうなると、インターネット経由で音楽データをやりとりすることも可能になります。



※ ADSL <https://www.nic.ad.jp/ja/tech/glos-ah.html#01-adsl>



💡 ダウンロード販売からストリーミング再生へ

こうした背景を元に、2000年前後には音楽販売会社によるダウンロード販売が始まりました。が、販売会社ごとに自社レーベルの音楽を販売するのみで、価格や使い勝手、楽曲数などの問題でなかなか普及しませんでした。これを一気に普及させたのが、米国では2003年、日本では2005年に始まったiTunes Music Storeです。iTunes Music Storeは複数レーベルを網羅しており、ユーザーにしてみれば、いつも使っているソフトウェアで、どのレーベルでも簡単かつ安価に好きな曲だけを購入できる、というのが魅力的でした。

また日本では、高機能化した携帯電話に対するダウンロード販売が一般に普及しました。いわゆる着うた、着うたフルです。2002年にサービスが始まりましたが、手持ちの携帯電話だけでダウンロード、再生、支払いが完結するので、PCを持たないユーザーにも使えるのが魅力でした。スマートフォンの普及により従来型携帯電話のシェアが低下したため、残念ながら2016年12月にサービスを終了しています。

だと広告無しでダウンロードも可能。料金は月額定額制で聴き放題というサービスです。Spotifyが存在感を増してきたのは2013年頃で、その成功に刺激されてか、日本国内では2015年にAWA、LINEMUSIC、Apple Music、Google Play Music、Amazon Prime Musicなどが立て続けにサービスを開始しました。

ストリーミング再生はネットワークが必須となるものの、いつでも最新のデータを入手可能です。さらに各サービスは単なる再生だけではなく、プロにより厳選されたプレイリストや、いわゆるインターネットラジオ、さらにはおすすめ曲を提示するといった機能も用意しています。ダウンロード販売で10曲も購入すれば、ストリーミングサービス1ヶ月の料金以上に相当することもあり、毎日新しい曲を聴くのなら極めてリーズナブルです。どんどん新しい曲を聴きたいというユーザーを中心に支持を集め、それが急成長に繋がりました。

世界的に見るとストリーミング配信で最初に商業的な成功を収めた目されるのはSpotify Technology社で、2008年にSpotifyという名前のサービスをスタートしました。無料会員は広告の入るストリーミング再生のみ、有料会員



「インターネット歴史年表」
も見てね!!
<https://www.nic.ad.jp/timeline/>